



# JINNOHARU 2024



概要版

## 陣原地区 第一次 ふくしのまちづくり計画



JR陣原駅

みんなが安心・安全に  
住み続けられる  
ふくしのまちづくり



# 2028

陣原地区では一緒に活動して下さる福祉協力員を募集しています  
楽しみながらボランティアしてみませんか？



陣原地区社会福祉協議会

〒807-0821 北九州市八幡西区陣原 3-23-9-101  
陣原市民センター内

TEL 093-641-0177 FAX 093-641-0178

# みんなが安心・安全に住み続けられるふくしのまちづくり

陣原地区では、地域共生社会の実現に向けて、子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れたところで安心して生活できるまちにしたいと願い、基本理念と基本目標、具体的な取り組みを定めました。

## ◆ 4つの基本目標と25の取り組み ◆

<p>基本目標</p>	<p>目指せ！元気な 100歳 (健康)</p>	<p>お互いに見守りながら 楽しくふれあおう (見守り)</p>	<p>支えたり支えられたり 地域友好の輪 (助け合い)</p>	<p>魅力ある地域行事で 人を育てよう (人づくり)</p>
<p>活動の 方針</p>	<p>陣原地区では市民センターや公民館での交流事業がさかんに行われています。また、老人クラブの行事も数多く開催されています。みんなと一緒に元気な100歳を目指しましょう。</p>	<p>現在は福祉協力員が民生委員・児童委員と協力し高齢者の見守り活動を行っています。今後は交流の場を増やしながら近所の住民同士でお互いに見守り合い、気になることがあれば、つなぐ地域づくりが重要です。</p>	<p>陣原地区では「ちょこっと応援隊」の募集が始まり、困りごと相談室を開設する準備をしています。趣味や特技を活かしながら誰もができることを少しずつ出し合って行くことで、助け合いのしつこみを充実していきます。</p>	<p>陣原地区ではたくさんの地域行事があります。これまで参加できなかった人にも参加してもらえよう、アイデアを出し合い、さらに魅力ある行事にして、新しい発見や出会いの場にしていきます。</p>
<p>取組み 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民センター、公民館での講座</li> <li>・老人クラブの交流 (月例会・同好会)</li> <li>・ニュースポーツ三世代交流 (グラウンドゴルフ等)</li> <li>・サロン等の居場所づくり</li> <li>・ラジオ体操</li> <li>・歩こう会</li> <li>・ウォーキング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども登下校見守り</li> <li>・福祉協力員による見守り活動 (「お元気ですか」の活用)</li> <li>・防犯パトロール</li> <li>・老人クラブ友愛訪問活動</li> <li>・まち美化運動 (参加者呼びかけ)</li> <li>・公園愛護会活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 陣原ちょこっと応援隊 (困りごと相談室開設)</li> <li>・避難支援のしくみづくり</li> <li>・ボランティア勧誘チラシの発行</li> <li>・買い物支援 (移動販売等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神社祭り(夏・秋)</li> <li>・活用品バザー・フリーマーケットの開催</li> <li>・物産展・お祭り・イベント</li> <li>・ふれあいまつり</li> <li>・青少年育成会の拡充</li> <li>・子ども向け体験行事</li> <li>・保護者参加型子ども行事</li> <li>・伝統行事 (子どもが参加・体験することでシビックプライドの醸成)</li> </ul>

### 重点実施項目

今回定めた基本目標を達成するために特に、関係機関・団体と連携して重点的に進めていく事業を「重点実施項目」と定め、次のことを推進していきます。

### 支えたり支えられたり 陣原ちょこっと応援隊の推進

現在は4人に1人が65歳以上の高齢者ですが地域には元気な人、ボランティア精神の豊かな人がたくさんいます。住み慣れた場所で安心して暮らし続けたい！この願いをみんなで実現していくために、困りごとを抱えた住民を支援するための「ちょこっと応援隊」の募集が始まりました。

### 未来につながる人材発掘

現在の魅力ある地域行事をもっと多くの人に知ってもらい取り組みを進めます。施設や商店などとの新たなつながりをつくと共に、多くの世代が活動に関わるきっかけを増やします。訪問活動を拡充するためにも、形にこだわらず、のびのびとした発想を大切にしながら新たな人材の確保を目指します。